

様式 3

平成 2 5 年度 第 3 回学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉東高等学校

学校長 牧 尚志

評 価 日		平成 2 6 年 3 月 1 4 日 (金)			
委 員	氏 名	年 齢	性別	資格・所属等	委員長
	石 田 正 紀	5 9	男	倉吉市立東中学校長 (中学校)	○
	青 山 真 知 子	3 6	女	倉吉市立河北中学校 P T A 役員 (地域代表)	
	武 本 智 美	4 8	女	倉吉東高保護者 (保護者代表)	
	小 谷 次 雄	7 2	男	学校評議員	
	寺 坂 和 利	5 2	男	学校評議員	
	名 越 宗 弘	5 0	男	学校評議員	
評 価 ・ 提 言				学校の所見・改善策等	
○「キャリア教育の充実」について ・既卒生徒と現役生徒との連携がとれなかったと説明があったが、本校が他校と連携して開催している 4 校連携東大講座の参加者は互いに良い刺激を受けていたので、学校自己評価表に追加すべきである。 ・平成 2 4 年 3 月学力に関する提言についての本校の取組があれば評価に入れたらどうか。 ○「広報力の強化」について ・同窓会の力を活用することはできないか。進学実績も上がり全国各地で活躍しておられる同窓生もおられるのでぜひとも活用する方法を検討してほしい。 ○「定時制教育の充実」について				・倉吉鴨水館との連携は、規則により連携できなかったが、4 校連携東大講座等の取組の追加記載を検討する。 ・学力とは単にテスト点だけではなく、学ぼうとする力等も学力として捉えられる。本校は、従来型の教え込みではなく、アクティブラーニングを全教科で取り組み評価している。 ・高い同窓会のポテンシャルを引き出すために、具体的な動きを検討していく必要がある。大学生が各地で開催される同窓会への参加についても参加しやすい体制をとっていただければ、同窓会とつながる足がかりになると考えられる。そのためにも大学生と同窓会の連携が取れるよう工夫を検討したい。	

・インターネット教育や消費者教育など日々の生活に必要な研修を行っているとのことであるが、人間関係づくりなどより良く生きるための研修をしていただきたい。 ○全体を通して ・大学を卒業しても就職できない学生が多い。勉強しないと大学には入学できないが、大学に合格すると「燃え尽き症候群」となってしまう、大学生のひ弱さに「物足らなさ」を感じてしまう。高校では、勉強以外のことにも力を注がせていただき、ストレスに強い人間づくりをお願いしたい。	・テーマにあった講師を招き講演会を開催してトラブルの解決方法など学んだ。人間関係づくりについては、不登校を経験している生徒も多くいることから、人と会話するための手法を学んでいる。来年度スクールソーシャルワーカーの本校配置が決まったので、活用していきたい。 ・勉強だけでなく、部活動を奨励すると同時に国際高校生フォーラムをはじめとする様々な学校行事を企画・実施している。今後も「文武両道」を目指して教育活動を推進していきたい。
---	--